

学校名：学校法人開新学園 熊本工業専門学校

課程名・学科名：職業実践専門課程 自動車整備工学科・半導体工学科

資料名：学校関係者評価結果公表資料

令和7年度学校関係者評価結果

1 令和7年度 熊本工業専門学校 教育重点目標

本校では、急速に変化する時代の流れに対応できる柔軟な思考力を育み、確かな知識と技術に裏付けられた能力を養い、実社会で活用できる力を育てることに重きを置いています。また、個人の成果だけでなく、他者との協力を大切にする姿勢を身につけることを奨励しています。さまざまな背景や価値観を持つ人々との対話や交流を通じ、多様性を受容し、思いやりの心を学生たちに伝えることに力を注いでいます。

国際的な視野を広げ、自ら気づき、考え、積極的に取り組むプロフェッショナルの育成を推進しています。知識と技術を両立させ、倫理的な判断力と積極的な行動力を兼ね備えた人材を社会に送り出すことを使命としています。

2 学校関係者評価委員会

日時 令和8年2月18日 15:30～

会場 本校 第三実習室

3 令和7年度 学校関係者評価 <各委員の意見の集約および意見に対する回答>

熊本工業専門学校

(1) 教育理念・目標

学校関係者評価委員会委員御意見	A委員:社会経済のニーズを踏まえた学校の人材育成像、将来構想は提示されている。 ただ、学生・保護者等が卒業後のキャリア(夢)を描く情報としては物足りない。 F委員:理念と目標は打ち出されているが今後の社会のニーズに伴った変化にも対応できる当校の教育の特色を明確にし内外に周知させる必要がある。 G委員:理念や目標がわからない。学生や保護者、ステークホルダーの方々への周知 H委員:熊本工業専門学校 HP の情報公開が、令和7年2月段階で止まっているため、評価しづらい。(令和7年度の教育目標が示されていないため、それが達成できたかどうかは判定できない。)
回答	○本校の教育の特色をはっきりさせたスクールミッションを作成。アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーも示し、パンフレットに掲載し学生に周知した。 ○就職先の公開が年度ごとの更新になっていた。年度途中にリアルな情報公開を行うこととする。 ○学校パンフレット・募集要項・願書・ホームページ等の総点検を実施。 ○本校の学びで得られるもの、例えば資格や免状等が、どのような進路に結び付いたかなどの図表等を具体的に示す。学びと将来像を学生・保護者がイメージしやすいように、さらに工夫していく。

(2) 学校運営

学校関係者評価委員会委員御意見	A委員：職員それぞれが学校運営に高い意識を持って取り組んでいる。ただ、全体の取り組みのとしては、方向がバラバラの印象を受ける。 C委員：ホームページ上の就職者の資格取得に必要な実務年数の規定が変更になっています。 E委員：必要な体制は整備されていると感じますが、成果については情報が少なく評価が難しいところもあります。 G委員：運営方針、事業計画、意思決定機能、教務・財務等の情報が不足しているので評価することが難しい。 H委員：HPで見る限り、運営組織や意思決定機能、教務・財務等の組織整備等の情報が不足している為評価することが難しい。
回答	○本年度は運営組織の改編を実施し、工業部および入試広報部を新設した。 ○各学科、各部署からの情報、特に数値データの集約と整理に努めたい。できる限り情報発信のタイムラグを少なくし、熊本工業専門学校の現状を可視化していく。 ○定期的にホームページを見直し、充実を図るとともに、ご指摘の情報不足を改善する。

(3) 教育活動

学校関係者評価委員会委員御意見	A委員：財務基盤の現状では無理かもしれないが、キャリア教育・実践的な職業教育ができる教育環境を整備する必要がある。 G委員：他校との差別化（企業からして熊工専卒業生は優秀と言ってもらえるような教育） H委員：R7のカリキュラム・シラバスは良く練られているが、「職業実践専門課程の基本情報」は、令和6年度の教育実績であり、評価対象の情報とはなっていない。
回答	○学生数（学費収入）の増加による各種施設整備の強化を今後段階的に行う。 ○企業様との連携授業・出前授業等を充実し、日々の授業とリンクしながら授業内容の高度化を図る。

(4) 学修成果

学校関係者評価委員会委員御意見	A委員：職員の負担は大きくなるが、卒業生との強力なパイプ作りはできませんか。 G委員：卒業生の活躍やキャリア形成への効果など情報不足で評価できない H委員：就職100%という数字は素晴らしいと思うが、その中身が見えない。令和6年度末の資料までしかHPには公開されていない。昨年の評議員会で、「学科改編により、電気システム科の技術保持者を求める求人が減るのでは？」との意見が出されたが、そのミスマッチを防ぐための方策として、具体的にどのような活動を計画・実践しているか？ 卒業生・在校生の社会的な活躍の把握法は？
回答	○本校卒業生の勤める企業様の出前授業により、「業界の今」を学生が認知し将来を見つめることができた。 自動車関係(ホンダモビリティ九州様・日産自動車様・スズキ自動車様・南九州マツダ様・いすゞ自動車九州様・ジー・エス・ティー様・アデル・カーズ様) ○関連企業様と連携授業による学習の高度化を図れている。 半導体関係(ワールドインテック様・ハマダレクテック様) 先端技術研修(池松機工様)

(5) 学生支援

学校関係者評価委員会委員御意見	A委員： 支援体制は学習意欲にも影響する。特に、教育環境の整備、保護者との連携、学生の生活環境、卒業生の支援体制は、気になりました。 G委員： 学生と先生のコミュニケーションの状態が重要だと思うが、明確にわからないので評価できない H委員： 課外活動に対する支援体制としては、具体的にどのようなものがあり、どのような効果を上げているか？
回答	○高等教育の就学支援制度を活用し、学生への経済的支援を実施している。 ○学生の就職支援は担任を中心に、就職部と連携しながら個別に丁寧に対応している。 ○課外活動の活発化による各種技術の取得（第2種電気工事士資格取得）

(6) 教育環境

学校関係者評価委員会委員御意見	A委員： 柔軟な思考力、確かな知識と技術力、実社会での実践力のためにも、施設・設備の整備が望まれます。 E委員： 学生の満足度向上に直結する施設や設備の拡充は、重要ポイントだと思います。 G委員： 施設の整備については、計画的に進めていると聞いていたが進んでいるようには感じない。経営的な事情はあると思いますがイメージが良くない。 H委員： 校舎の雨漏り防止については工事なされたと聞く。施設設備の老朽化対策は喫緊の課題。半導体を専門に学ぶための機器についても計画的に導入が必要と考える。更新計画は策定されているか？
回答	○施設の老朽化が進行しているため、今後、各種施設の整備を段階的に強化していく方針である。 ○各種施設整備の強化を今後段階的に行う。 現在の老朽化対策は場当たりの対処療法的なものになっている。本年度は学生の教育環境の充実の一環として、自動車科第3実習室のエアコンの入れ替え、日本語科国際情報会館の教室の改装、エアコンの入れ替えを行った。 ○国際情報会館2階のパソコン実習室設置のリース契約切れの古いパソコン25台の新品機種購入による置き換えを実施し、快適な実習環境を整えた。 ○令和8年度は、入学者増に伴い在籍数はここ数年で最大となる。(在籍数400名/定員440) 学生数の増加により、収入増が見込まれるため、今後計画的に施設整備の強化に努める。 ○半導体工学科の実習機材等については、社会のニーズや技術動向の変化に対応できる人材を育成するため、今後も計画的に施設・設備の充実を図っていく。

(7) 学生の受入れ募集

学校関係者評価委員会委員御意見	A委員：新学科設立後2～4年は応募数は多くなるのが一般的な傾向。実際の教育内容がその後の応募者数に影響する。現在の教育で魅力を発信できるか。 E委員：さらなる少子化を見越した情報発信が必要になると思われます。 G委員：県内の工業高校、普通高校の進路担当者との関係強化
回答	○学生募集部職員を増員し、県内外の高等学校及び九州一円の日本語科がある専門学校に訪問を重ね、本校をアピールした。夏休みには、各科の教員が県下の高等学校を訪問。進路担当と関係を密にした。 ○オープンキャンパス参加者は、昨年と比べ倍増。(延べ101名→234名) ○令和8年度入試における志願者数は、234名。自動車整備工学科においては、10月の1次入試、半導体工学科においては、11月の2次入試にて定員を満たした。

(8) 財務

学校関係者評価委員会委員御意見	E委員：財務基盤の重要なポイントである学生確保の観点から、学生の増加傾向は大いに評価できると思いますが更に目標定員人数に近づけることに期待したいと思います。 G委員：財務改善を図る具体的な取組みと投資計画の両立
回答	○令和8年度入学生は、定員を満たすことができた。入学者増のプラス要因を分析し、今後の定員維持につとめ、将来の定員増も視野に入れる。 ○各科からの施設・機材整備に関する要望を吸い上げ、精査したのち学生に還元できる環境を少しずつ行った。

(9) 法令等の遵守

学校関係者評価委員会委員御意見	A委員：研修に対する自己評価結果で、職員の研修に対する意欲が理解できた。その意欲が生かされていない印象を受ける。 E委員：体制面からコンプライアンスを遵守されていることが伺えます。個人情報保護やハラスメント防止等はどの程度取り組まれているかが不明です。 G委員：学生に対する法令順守の講義や研修の実施。
回答	○Webによる教職員研修会や自己研鑽研修会への積極的に参加した。 ○学校運営会議・職員会議を通じて、法令遵守の啓蒙を行っている。 ○消防による防災訓練、警察による交通安全教育を実施。

(10) 社会貢献・地域貢献

学校関係者評価委員会委員御意見	A委員： 職員の負担増になるが、学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献や学生のボランティア活動を奨励、支援して、学生の職業教育以外の教育の機会としてもらいたい。 E委員：地域貢献等をされているとは思いますが、情報公開が少なく分かりづらいです。 F委員：紫陽花を地域住民に観賞させたり、周辺の清掃もされており地域への貢献は素晴らしい。 G委員：活動の情報不足で評価できない
回答	○学生による学校周辺の清掃活動(4月・7月・11月) ○「紫陽花鑑賞会」は「切花お渡し会」として継続。多くの地域の方にご参加いただいた。(6月2日～4日の3日間) ○地域主催の祭りなどへの積極的参加(7月26日：日本語科) ○熊本県実施の交通安全週間等では職員総出で交通安全を呼びかけ、地域の交通安全に努めた。 ○熊本市保健所による地域住民の検診場所を提供。多くの方に来校頂いた。

(11) 国際交流

学校関係者評価委員会委員御意見	E委員：留学生の増加に伴い生活面でのトラブル防止やサポートの充実が懸念されます。政治的側面での影響も気になるところです。 G委員：情報不足で評価できない H委員：留学生数は順調に推移しているが、熊工専で学ぶことに魅力を感じるような方策が求められる。積極的な資格取得のための方策はあるか？
回答	○全教職員にて、留学生ひとりひとりに目を向け、心身の小さな変化を見逃さないよう日々の声掛けを行っている。 ○開新高等学校総合学科3年生との異文化交流会実施(11月：日本語科2年生) ○留学生と地域住民との交流会を開催した。(7月26日夏祭り：日本語科) ○積極的な資格取得(第2種電気工事士、技術英語能力検定、JLPT N1、N2、N3)